

第3章

まちづくりの理念・まちづくりの目標

第3章 まちづくりの理念・まちづくりの目標

1. まちづくりの理念

第三次鬼北町長期総合計画において、これからも子どもから高齢者まで、全ての人が心豊かに、互いに支え合いながら暮らしていけるまちづくりを目指していくための本町の将来像として、「きほく／きおく にのこるまち」を掲げています。

本計画においては、まちづくりの視点からこの将来都市像の実現を目指します。

きほく にのこるまち

この地で大切に受け継がれてきた「鬼北愛」。それは、単なる郷土への思いではなく、風土や歴史、人とのつながりの中で自然と育まれてきた豊かさです。現在この町に暮らす住民もまた、その鬼北愛を心に抱きながら、次世代へと確かにつなげていこうと、日々、豊かな心と共に暮らしを営んでいます。これからも、子どもから高齢者まで、全ての人が心豊かに、互いに支え合いながら暮らしていけるまちづくりを進めていきます。

【きほくにのこるまち】

全国1,741自治体の中で唯一「鬼」の文字がつく町名を持つ鬼北町。町の個性や特色を自らの誇りとして受け止め、この地に生まれ育った誰もが、「鬼北に残りたい」「鬼北で家族とともに暮らし続けたい」と願い、それがかなえられる未来を目指します。

また、鬼北町が誇る豊かな自然は、単なる景観ではなく、私たちの暮らしと心を潤すかけがえのない財産です。この自然と共に生き、守り、次世代へと引き継いでいきます。

【きおくにのこるまち】

この地を一度離れた人々や、観光などで訪れた人々にとっても、鬼北町が心に残る、また戻ってきたくなるような場所でありたい。祭りのにぎわいや人々の笑顔、心を打つ風景の一つひとつが、記憶に深く刻まれるようなまちをつくっていきます。

町に暮らす一人ひとりが自らの個性を発揮し、この個性が集まって町全体を色彩豊かに照らす光となり、魅了する。それこそが、私たちが目指す“生き続ける鬼北”の姿です。将来像実現に向けて、輝きを絶やさないまちづくりを推進します。

図 3-1 第三次鬼北町長期総合計画における将来都市像

資料：第三次鬼北町長期総合計画

2. まちづくりの目標

2-1. まちづくりの基本的考え方

本町では、令和27（2045）年に人口が5,506人になると予測（社人研推計）されていますが、人口減少や高齢化に対して対策を講じなかった場合、非効率な市街地が形成され、生活利便性の低下などの事態を招くおそれがあります。このことから、人口減少下においても生活利便性を確保し、高齢化の進行に対応した安全・安心の住みよい生活環境を確保するため、「市街地」「田園集落」「自然環境保全」のゾーンで構成したまちづくりを進めていくことが重要です。

2-2. まちづくりの基本目標

将来を見据えたまちづくりを進めるため、町が有する豊かな自然や歴史・文化を大切にしつつ、これまでに形成された市街地・集落地の特性をいかしていきます。また、まちとしての価値や魅力を高め、持続的に発展していくことを目指し、高齢化が進行しても安心して生活ができ、暮らしの質が向上し、「住み続けたい」、「移り住みたい」と思える都市づくりを展開します。

基本目標 1：広域の交流を支える拠点・ネットワークを形成

- JR 近永駅周辺や鬼北町役場周辺における拠点機能の強化と魅力創造（中心拠点）
- 国道・県道沿道における商業機能の確保
- 農村地域・郊外部、周辺自治体との移動・連携を支える交通ネットワークの維持・充実

基本目標 2：生活機能と公共交通が一体となった利便性の高い市街地を形成

- 国道沿道における生活利便機能の維持・確保
- コンパクトな市街地の形成と公共施設の適正配置
- 市街地内の生活利便性を支える交通手段の維持・確保
- 災害対応力を高める市街地の形成

基本目標 3：農村地域・郊外部における暮らしを守り、魅力を創造

- 地域コミュニティや交流活動の拠点となる場を形成（地域生活拠点）
- 自然環境や地域固有の歴史・文化資源とふれあい、魅力を伝える交流人口拡大の拠点（観光交流拠点）
- 豊かな自然環境、農村環境を生かした魅力ある住環境の確保

